

お互いの本当が伝わる時

— 障害者 —



雇用分野に関して改正障害者雇用促進法が、雇用以外の分野に関して障害者差別解消法がそれぞれ施行され、事業者・事業主に対して、障害者に対する「不当な差別的取扱いの禁止」と「合理的配慮の提供義務」が定められました。

しかしながら、障害のある人に対する差別は解消されたとは言えず、また自分が意図せずとも相手を傷つけているケースも少なくありません。

「障害のある人をどう手助けすればいいのかわからない」という声をよく耳にします。今作「お互いの本当が伝わる時」では、障害のある人が、どんな場面で困っているのか、どんな「バリア」があるのかなどの具体例を挙げ、それをどう取り除いていけばいいのか、また障害のある人から発信することの重要性も示しています。

「障害のあるなしに関わらず皆で共生していくためにはどうすればいいのか」を、考える一助となれば幸いです。

上映時間24分 [C#2730]

DVD 本体価格 66,000円(税抜)

解説書・チェックシート付き

字幕・副音声版付き



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17

<http://www.toei.co.jp/edu/>

お互いの本当が伝わる時

— 障害者 —

● ストーリー ●

CHAPTER① 見えない人が見ている景色

山中と藤光がいる店舗企画本部に、視覚障害のある桜田が配属されることになった。最初は戸惑う山中だったが、テキパキと仕事をこなす桜田を見て徐々に打ち解けていく。

ある日山中は、藤光が桜田の着ているマリンブルーの服の色を褒めているところを見かける。山中は、藤光が視覚障害者に対しての配慮が足りないのではないかと考えるが…。



CHAPTER② 本当を伝え合う

山中がエレベーターに乗っていると、車いすの吉村が乗ってくる。山中は降りる際に気を利かせたつもりで、吉村に先に降りるよう促すが、「いいから先に降りてください」と強い口調で言われ、不快な気持ちになる。

その話を聞いていた藤光が、エレベーターで吉村と乗り合わせて…。



CHAPTER③ 弱みが強みに変わるとき

伊坂がいるウェブ事業部には、前園という発達障害のある社員がいる。周りとうまくコミュニケーションが取れない前園は、部長からも良く思われていない。

ある日、前園が落ち着かない様子だったので伊坂が声をかけると、「ここでは集中できません!」と言って、思いつめた顔で席を立ち部屋を出ていく。追いかけて理由を聞くと…。



CHAPTER④ 医学モデル・社会モデル

山中と藤光は、桜田と吉村との食事会のために、ロビーで待ちながら立ち話をしている。障害とは何かを考える際には、「医学モデル」と「社会モデル」があるという話になる。



プロデューサー 中鉢裕幸 撮影 笠原 晋
 笹谷将貴 照明 笠 真吾
 脚本 山上梨香 録音 八木重憲
 監督・編集 越坂康史

制作協力 オープンアイズ合同会社
 企画・制作 東映株式会社 教育映像部

2018年作品 p.

- 本DVDは、ご購入いただいた官公庁(都道府県、市町村、視聴覚ライブラリー、教育委員会、警察、消防等)や事業所等での貸出し、非営利上映を行うことを前提とした商品です。著作権補償金を含んだ価格設定となっておりますので、著作権処理を行うことなく、上映会や研修会等でご使用になれます。
- 本DVDについて次の行為に該当する場合は、使用の可否や別途料金等について、必ず当社までご相談ください。
 - ・テレビでの放映
 - ・ビデオ・オンデマンド等による配信
- 著作権者に無断で、作品の一部または全部を複製・改変・放送・有料上映することは著作権法違反となります。
- DVDビデオは映像と音声を高密度に記録したディスクです。DVDビデオ対応のプレーヤーで再生してください。パソコンなど一部の機種で再生できない場合があります。

●お買い上げは…

北辰映像株式会社

〒350-0461 埼玉県入間郡毛呂山町中央 3-32-3
 TEL:049-298-5792 FAX:049-298-5793
 E-mail : co@hokushineizo.com